

ほ〜っと 仙台メディアフェス特集号

2011年10月25日



発行 NPO 法人むさしのみたか市民テレビ局



市民メディア全国交流集会＜番外編＞イン仙台

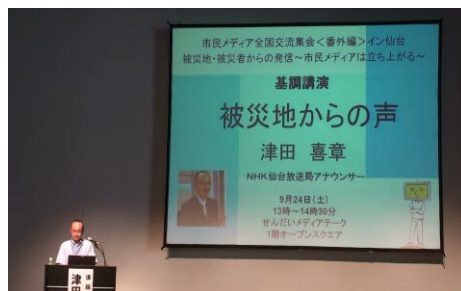
「被災地・被災者からの発信—市民メディアは立ち上がる」

期日：2011年9月24日（土）10:30～18:00 その後懇親会
9月23日（金・祝）被災地石巻市へ（河戸）
9月25日（日）市民メディア全国交流協議会総会
（河戸ほか2名出席）
会場：せんだいメディアテーク1F オープンスクエア
<http://www.citizenmedia-sendai.com/>
主催：市民メディア全国交流集会「番外編」イン仙台実行委員会
後援：仙台市、河北新報社、仙台CATV、fmいすみ797、
東北大学大学院情報科学研究科
協力：せんだいメディアテーク

今年のメディアフェスは、東日本大震災を受けて、そのとき、市民被災地からの被災者の声を伝える市民メディア、オルタナティブ・メディアの活動を報告・発表。地域とメディアと市民・住民の間をつなぐ情報のありかたや発信の可能性などを明らかにしながら、将来に生かせるメディアについて展望を開く。

■プログラム

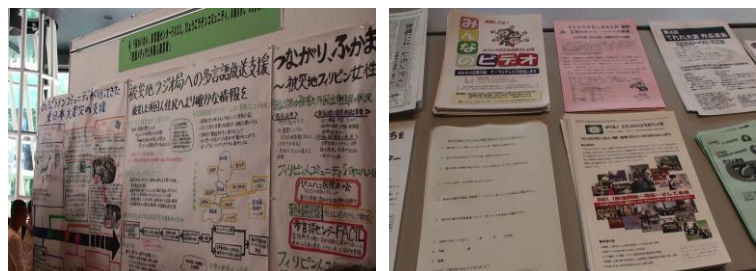
10:30-12:00 出展企画 11コマ
12:00-13:00 昼食休憩
12:15-12:45 ビデオ上映「動物たちの大震災」
～生きていた150日の日々～
13:00-13:10 主催者あいさつ
13:00-14:20 基調講演
「被災地からの声」津田喜章(NHKアナウンサー)
14:30-14:45 休憩
14:45-17:00 パネルディスカッション（第1部）
17:00-18:00 パネルディスカッション（第2部）
18:30～ 懇親会・交流会



■パネルディスカッション

コーディネーター 阿部清人 (fmいすみ)
パネリスト

高橋 厚 りんごラジオ代表
三浦宏之 (株)プラスヴォイス代表取締役
内山裕信 (有)アウィッシュ代表取締役
福長 悠 東北大学文学部



■出展企画 ①日本社会情報学会災害情報支援チーム(JSIS-BJK) ②Slowtimes.net長岡素彦+iSPP ③武蔵大学
④FMわいわい、多言語センターFACIL、ひょうごラテンコミュニティ、AMARC Japan ⑤社の伝言板ゆるる
⑥fmいすみ797 ⑦仙台CATV株式会社 ⑧ローカルビズカフェ/NPO法人ファイブブリッジ ⑨ボランティアインフォ
⑩3がつ11にちをわすれないためにセンター せんだいメディアテーク ⑪東北大学大学院情報科学研究科メディア文化論研究室

参加された皆さんの感想と報告です

9回目のメディアフェスは、東日本大震災を受けての特別な集会となりました。一時は危ぶまれた開催でしたが、「番外編」として結実。テーマも被災と市民メディアにしぼり、コンパクトで有益な交流集会となりました。被災を押し準備をされた実行委員会のご努力に敬意を表します。集会では、災害に直面して、市民はどのように情報発信をし、復興・復旧のために取り組んだのか。現場の人たちの思いのこもった声を聞くことができました。ラジオのほか、ツイッターやフェイスブックなど、新しいメディアの活躍も印象的でした。マスメディアに代わって市民が自ら情報を発信する、人とつながる、つなげる、そうしたメディアアクティビストが増えることが、今後の社会を変えていくのではないかと予感がします。また、山元町の災害災害臨時FM放送局「りんごラジオ」の人のお話からは、いざというときのために、日頃から市民が発信力をつけておくことの大切さを教えられました。交流集会の開催の仕方としては、横浜開催以来の分科会方式でなく、一テーマ、一会場のシンプルな集会になったことで、皆で全体を眺め共有することができました。今後の交流会開催の参考になるでしょう。翌日開催された総会では、協議会の目的が改めて確認され、新世話人が決まりました。市民テレビ局としても応援を引き続き行ってまいります。来年は上越・高田での開催になります。【河戸道子】

今年コンパクトな集会だった。仕切りのないひとつの空間に出展企画、パネルディスカッション、懇親会の会場があり、全体が見渡せることができるため、どこで何をしているのかがわかりやすく、いつも分科会を回りきれず、やや不満だったことが解消された。パネルディスカッションの事例紹介では、災害臨時FM放送「りんごラジオ」のほか、facebookを活用、救援物資を運び支援をしている人、現地に行けないためblogで中国語の災害情報を発信している学生など、facebook、blog、twitterなど新しい支援方法が印象的だった。パネルディスカッションの人選には少し疑問が残るが、今回の交流集会は総合的に見ると、限られた時間と予算の中で十分納得のいく内容だったと思う。【M.S】

メディアに関わるものとして参考になった集会だった。われわれの町も何時災害に襲われるかわからない。いや、必ず災害はやって来るだろう。市民テレビ局は情報を集め、提供しなければならぬ。そのためには養成講座での募集やニュース報道の訓練など、平素から準備しておく必要がある。【K.S】

勤務先の武蔵大学の学生とともに4月に立ち上げた「学生による被災地支援の市民メディアプロジェクト」の企画出展を行い、好評でした。仙台メディアフェスは地元の市民以外にも国内外の新聞記者が訪れ、3.11をテーマにした交流集会へのメディア関係者の関心の高さがわかりました。【Y.M】

今回のメディアフェスは分科会を設けず、メインステージと団体パネル展示というシンプルなセッティングで、皆が1日を共有できるコンパクトな会の良さがでていた。

翌日の総会では一定の合意と進展があったが、市民メディアは多様な市民が主体であるべきと思う。学術系や専門家の存在感が強いことに少し違和感を感じた。今後は、市民らしさや多様性が交流によって広まって欲しい。【横山哲也】

震災に特化したメディアフェスであったが、得たものは非常に大きかった。局の中での「広報」という立場で考えた時、局員に、また市民にどのように発信していくべきか。課題は山のようにある。【山田和美】

■9月23日、石巻に入った河戸さんからの被災地報告です

9月23日、仙台から石巻に足をのばした。台風15号の被害で仙石線が不通だったので、バスで片道2時間。沿道は収穫直前の稲穂が黄金色の美しい彩りを見せる田が広がり、「東北の秋」の旅情を味わう。しかし、中には台風で水につかった田もあり、自然災害にさらされた今年の東北の悲哀を感じた。石巻は、地震で地盤が沈下、昨日まで、台風15号の雨で浸水していたとか。商店街もほとんどしまっていた。交通機関はないので、タクシーで市内を巡る。高台は地震の被害もあまり見えないが、海岸沿いは壊滅状態。がれきの撤去は進んでいるものの、工場の太い鉄柱が引きちぎられ、打ち上げられた船や大きな重油のドラム缶がころがっていたり（写真上）、水にぶち抜かれ、穴があいたままかろうじて建っている新築の家や工場など、津波の爪痕の凄まじさに圧倒された。津波のあと、海に広がった火災で燃えた小学校付近は、まるで戦争跡のよう。お彼岸とあって、なぎたおされた墓石にお参りの人が花束を手向けていたのが、印象的だった（写真下）。なまりの強いタクシーの乗務員から、復興対策の遅いことへの嘆きや不満など、町の人の思いを聞く。海岸から山の手へ上れば、一転、普通の生活が・・・。明暗を分けた地形や人の運命を思う。

